
研究ノート

コンピテンシー診断の結果と大阪国際大学生の課題

菊地 信一*

A result of competency test and the theme of Osaka international university's students

Shinichi Kikuchi*

Abstract

What is competency test?

This test result explores how best to support students, showing that they need any studies on select of occupation.

It is important to keep up a contact with our students.

キーワード

コンピテンシー（行動特性）

きちんとやる力（達成行動力・資源活用力・プロセスマネジメント）

はじめに

近年、優秀な社員の仕事の進め方、やり方などを分析したうえで、その特徴をまとめ、人事考課などの判断基準にするコンピテンシー（行動特性）評価制度が多くの企業に広がりを見せている。高い業績を上げた社員の行動や発想の特徴を調べ、分類し、こうした項目に沿った行動を一般社員がしているかどうかを評価するシステムである。企業内では、能力開発等の目標にしているケースも目立ってきた。

新卒採用においても、コンピテンシー評価を取り入れ、合否の判定に組み入れる企業が急増している。この背景には、偏差値重視型の採用に対する反省もある。いわゆる有名大学・学部出身者が必ずしも好業績を上げていない現実を直視した流れともいえそうだ。

そこで、大阪国際大学生に対して、どのようなコンピテンシーを有しているかを判断し、その結果をキャリア教育に活かしていくことを主眼に、授業内でこの診断を実施した。ここでは、各学年、各学部の結果を報告し、そのコンピテンシー能力について分析し、今後の課題について論じていきたい。

*きくち しんいち：大阪国際大学総合教育推進機構助教授 2004.12.9 受理

コンピテンシー診断実施の要領

枚方キャンパス（法政経学部、経営情報学部）

「社会生活の基礎」(3年生対象) 2004年5月14日実施 107名実施

「キャリアデザイン」(2年生対象) 2004年5月13日実施 69名実施

守口キャンパス（人間科学部）

「キャリアデザイン」(2・3年生対象) 2004年5月13日実施 35名実施

個人データについては、受験後2週間後に（原則として）返却し、それぞれの自己アピール作成や今後の取り組み方についてのアドバイスに役立っているところである。

なお、コンピテンシー診断テストについては㈱文化放送キャリアパートナーズ、および、㈱富士ゼロックス総合教育研究所により作成された《B-CATCH》を使用した。結果については、両社による分析シートが、受験した学生に提供された。

・コンピテンシー診断《B-CATCH》の目的

(学生に配布した資料)

コンピテンシー診断《B-CATCH》の目的

2-1 コンピテンシーって何？

コンピテンシー（Competency）とは何でしょうか？

聞きなれない言葉かも知れませんが、直訳すると「資格・能力」という意味です。

しかし、日本のビジネス社会では「業績・成果に対する行動・思考特性」と認識されています。つまり「いい仕事をする」人が「期待通りの成果をあげるために、どのような事を考え、具体的にどのように行動するのか＝仕事に対する取り組み方」を科学的に分析したもののなのです。

またコンピテンシーは採用試験や社員の研修・育成教育としてのみならず、人事配置、昇給・昇格などさまざまな基準として活用されています。

2-2 自分のキャリアは自分の力で伸ばしていこう。

そのための第一歩として。

大学に入学して、皆さんは自分の進路を決めていますか？

卒業したら、こんな仕事に就きたい、と決めていますか？

ほとんどの学生はまだ決まっていらないでしょう。決めている学生の中にも、どんな学生生活を送ったら良いか、不安を持っていることでしょう。

この不安の多くは、目的に向かうために自分が準備しなければならない事は何か？その目的あるいは、目標を見つけるために今、自分は何をしたら良いのか？という事ではないでしょうか？それは、皆さんがどんな力を持っているのか、まだ理解できていないからではないでしょうか。

コンピテンシー診断の結果と大阪国際大学生の課題

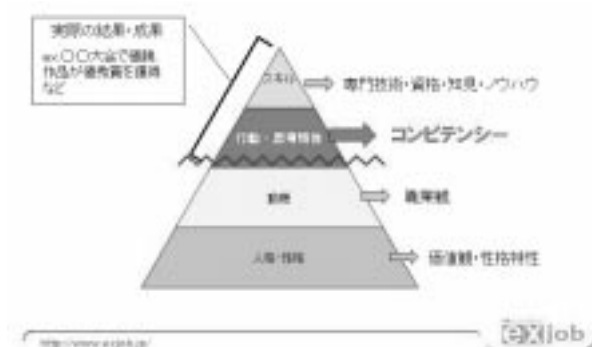


図 1 : コンピテンシーの冰山モデル

上図は、コンピテンシーの概念を示した「冰山モデル」と呼ばれているものです。全体を海に浮かぶ冰山に見立ててください。波から顔を出す氷山の上に部分が、我々の目に映るもの、つまり実際の結果や成果、例えば 大会で優勝したとか、作品が優秀賞を獲得したといったことです。しかし、実際は我々が舟の上から見えない氷山の下の部分が、この冰山全体を支えています。つまり、その人に秘められた性格や物事の考え方が結果を生み出しているのです。この冰山全体がコンピテンシーという事になります。

今回、実施するコンピテンシー診断テストでは、この氷山の見えない部分から波打ち際で見え隠れする部分を見つけることを目標にしています。

皆さんは、どんな冰山がつかれるのでしょうか？そして、どんなコンピテンシーを持っているのでしょうか？

コンピテンシー診断《B-CATCH》で何がわかるの？

2-3 すべての自分のコンピテンシーを知ることからはじまる。

就職活動において、ビジネス社会（企業）が求める人材とは何でしょうか？学業成績が良ければいいわけではありません。出来るだけ、業績を上げてくれる可能性をもった人（その企業の求めるコンピテンシーを持った人）を採用します。

コンピテンシー診断では、第一に「ビジネス社会（企業）が求めている大きな6つの能力=コンピテンシー」（図参照）を測定します。学力試験ではなく、あなたが近いと思う項目を選択して回答することによって、コンピテンシーを見つけていきます。

2-4 ビジネス社会の求めている大きな6つの項目をわかり易くいうと

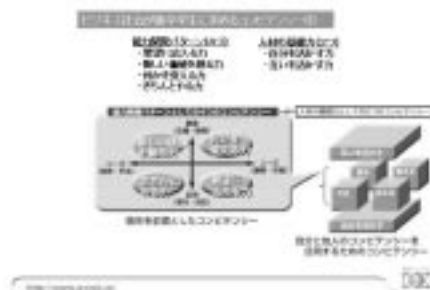


図2：『B-CATCH』で測定する能力

項目	内容	評価	備考
コミュニケーション力	コミュニケーション力	優	
人材採用力	人材採用力	優	
業務遂行力	業務遂行力	優	
自己研鑽力	自己研鑽力	優	

図3：『B-CATCH』で測定する能力

・「要望に応える力」とは、人間関係を大事にして（ 1 ）、常に相手の立場に立って（ 2、 3 ）物事を遂行していく力。仕事をする上で、お客様が求めているものは何だろうと考えて行動すること。学生生活の中でも、友人や周りのことを考えて行動することです。

・「新しい価値を創る力」とは、新商品を開発したり、新企画を立ち上げたりする創造力のこと。単純にアイデアを出すだけではなく、新しい商品を開発するには、様々な情報を集めて（ 4 ）よく分析をして（ 5 ）、納得させること（ 6 ）が必要。全く違う視点から、ゼミ発表をして、友人や先生を唸らせる、という事もこのコンピテンシーが強いことになります。

・「何かを変える力」とは、今まで当たり前のようにやってきた事に対して、ここをこう変えることで、業務を改善させることが出来る力（ 7、 8 ）とそれを理解してもらおう力（ 9 ）。ビジネス社会は、常に変化と対応が求められています。学生生活の上では、クラブ活動などで練習メニューを改善して良い結果をだす力です。

・「きちんとやる力」とは、決められた目標を成し遂げるために、あきらめずに取り組む姿勢（ 10 ）や、そのために必要な情報や人を上手に活用して（ 11 ）、順序立てて達成させる力（ 12 ）。学業においては、レポート提出の期限を守るだけことなく、先生への質問や文献を調べ、中身の濃いものに仕上げることなどです。

いままでの4つのコンピテンシーは、ビジネス社会において皆さんが発揮しなければならない能力。これを「能力発揮パターンの4つのコンピテンシー」と呼びます。しかし、高い能力があっても、それを発揮しなければ意味がありません。

そこで、この4つのコンピテンシーを発揮させる以下の2つのコンピテンシーが必要に

なります。これを「人材の基礎力としての2つのコンピテンシー」と呼びます。

・「自らを活かす力」とは、1～4までの自分のコンピテンシーを発揮させることが出来る力を意味します。そのためには、仲間との話し合いを綿密に行い（13）、約束をしっかりと守り（14）、状況をよく理解して（15）結果を出す事が重要。就職活動も同様ですが、一人で出来る事は限られています。就職課を利用し、会社の選考スケジュールを理解し、友人との情報交換をしながら自分のコンピテンシーを活かした活動が必要です。

・「互いを活かす力」とは、他の人が持っているコンピテンシーを発揮させる力を意味します。そのためには、メンバーをまとめ上げ（16）、良き理解者としての確かなアドバイスをして（17）、仕事をしやすい環境をつくる（18）が重要です。ゼミ・サークルなどで良きリーダーとして信頼され、実績を上げている人は、この力が優れていることとなります。

目標を持ってコンピテンシーを開発

2-5 キャンパスライフでコンピテンシーは開発できる。

ビジネス社会（企業）が求める6つのコンピテンシーは、実はキャンパスライフの過ごし方と密接な関係があります。そして、今の自分の可能性を知り、行動することが将来設計に重要なのです。

このコンピテンシー診断では、大きな6つのコンピテンシーと、更に細分化した18項目のコンピテンシーを測定します。これによって、強いコンピテンシー（強み・長所）と弱いコンピテンシー（弱み・弱点）を導き出します。そして、強いコンピテンシーをより強く、また弱点を克服するためにはどのような事をすべきかをアドバイスいたします。

例えば、「要望に応える力」の中の「顧客指向力」が低い評価だった場合、これを開発するための具体的な行動目標として「サークル・ゼミ合宿の幹事を引き受けた時には、相手の要望を確認する」や、逆に高い評価だった場合には「幹事を引き受けた時は、相手の要望にタイムリーに応え喜んでもらうよう行動する」といった行動目標例を提案します。

コンピテンシーは、先天的に持っている性格や価値観とは違って、自らの意思と行動によって変化・開発されるものです。

コンピテンシー診断は、科学的根拠に基づいたテストですが、この結果はすべて完全なものではありません。自己を理解するための一つの材料として活用してください。

2-6 自分のコンピテンシーを学生生活と進路選択に活かすために。

このコンピテンシー診断でわかることの、第2はあなたが今持っているコンピテンシーがどのような仕事の場面で発揮できるか、を予測します。また、もし、あなたが将来就き

たい仕事がある場合には、その仕事に必要なコンピテンシーは何か、を導き出します。

コンピテンシーは、急激に変わるものではありません。なぜなら、今まで20数年間生きてきた経験から導かれたあなたの個性だからです。これから先は、自分自身が毎日をどう取り組むか、によって結果が変わっていきます。「継続は力なり」とはありふれた言葉ですが、学生生活を有意義なものにするために、この結果を活かしてください。

具体的に行動に取り組む方法として、目標シートなどをつくり、自分の部屋の壁に貼る、手帳に挟み込むなど、常に確認しながら意識した行動をすることをお勧めします。

輝かしい未来に向かって、まず第一歩を踏み出しましょう。

・コンピテンシー診断《B-CATCH》の結果

【全学部】			
	2年(225)	3年(118)	合計
きちんとやる力	5.73	5.63	5.78
継続にのめる力	5.28	5.28	5.28
新しい価値を創る力	4.87	4.69	4.84
何かを変える力	5.63	5.65	5.74
自らを活かす力	5.16	5.31	5.25
思いを活かす力	5.42	5.43	5.43

【法政経済学部】			
	2年(110)	3年(114)	合計
きちんとやる力	6.06	5.77	5.93
継続にのめる力	5.27	5.38	5.38
新しい価値を創る力	4.61	5.07	4.98
何かを変える力	5.63	5.58	5.63
自らを活かす力	5.27	5.37	5.30
思いを活かす力	5.17	5.49	5.42

【経営情報学部】			
	2年(61)	3年(33)	合計
きちんとやる力	5.36	4.95	5.12
継続にのめる力	5.20	5.08	5.15
新しい価値を創る力	4.82	4.78	4.80
何かを変える力	5.23	5.32	5.28
自らを活かす力	5.00	5.35	5.17
思いを活かす力	5.38	5.21	5.32

【人間科学部】			
	2年(28)	3年(11)	合計
きちんとやる力	5.42	5.27	5.37
継続にのめる力	5.50	5.09	5.37
新しい価値を創る力	5.17	5.09	5.14
何かを変える力	6.04	6.27	6.15
自らを活かす力	5.48	5.27	5.40
思いを活かす力	5.67	5.73	5.68

<http://www.exjob.jp/>



図4：大阪国際大学コンピテンシー分析

・コンピテンシー診断の結果

- (1) 全学部を通して、2年・3年とも「きちんとやる力」(達成指向力、資源活用力、プロセスマネジメント)、「何かを変える力」(意思決定マネジメント、戦略策定、リスクテイク)が高い傾向にある。
- (2) 企業が求める能力に対しては、「新しい価値を創る力」(分析的思考、情報志向性、コンセプト形成)が1ポイント不足している。しかし、その一方で、他の5つのコンピテンシーについてはクリアしている。

B-CATCH コンピテンシー分析シート

あまり発達していないコンピテンシー

■ 分析的思考 (新しい価値をつくる力)

【分析的思考とは】
将来の仕事において、周囲などから様々な情報に晒され、その中で必要な情報を抽出し、適切な判断や行動を遂行する力。特に、新しい価値を生み出すために、過去の経験や知識を基に、新しい視点やアイデアを創出し、それを現実化する力。また、問題解決のための創造的な思考や、リスク管理などの能力も含まれます。また、新しい価値を生み出すためには、正しい意思決定に結びつく大切な要素の一つであることも理解する必要があります。

【指標ポイント】

- 問題の背景や因果を正しくとらえる姿勢をまず身に付けること学習をつけるよう指導してください。
- 起こっている問題の事実関係を調査、分析する。
- 似たような問題が起きたら、何を学ぶべきか。
- 似たような問題が起きたら、何を学ぶべきか。

【レベル別認知トレーニング項目】

- 論文、レポートなどをまとめる時など、どんなことに重点をおいていますか？具体的に説明してください。
- 論文、レポートなどをまとめる時など、どんなことに重点をおいていますか？具体的に説明してください。
- 自分自身、先輩後輩などから受けたアドバイスは、何に重点をおいていますか？具体的に説明してください。

■ 情報指向性 (新しい価値をつくる力)

【情報指向性とは】
将来の仕事において、「有益な情報を効果的に収集する」という情報指向性は、必要な情報を効果的に収集し、把握することにより、問題の解決や意思決定に大きく影響します。そのためには、必要な情報を効果的に収集し、把握することにより、問題の解決や意思決定に大きく影響します。そのためには、必要な情報を効果的に収集し、把握することにより、問題の解決や意思決定に大きく影響します。

【指標ポイント】

- 学業やサークルなどをはじめ何事にも事前の情報収集は欠かせないものです。事前に最新で有益な情報を収集する習慣をつけるよう指導してください。
- できるだけ積極的に情報を集める。
- 古い情報に頼らず、常に新しい情報を集める。

【レベル別認知トレーニング項目】

- 就職活動中の面接で、業界研究や企業研究をする際、どのように活動していますか？どんな形での情報収集をしていますか？具体的に説明してください。
- 何かを学ぶとき、どのように活動していますか？具体的に説明してください。
- 何か計画を立てるとき、どのように活動していますか？具体的に説明してください。

よく発達しているコンピテンシー

■ 資源活用能力 (きちんとやる力)

【資源活用能力とは】
将来の仕事において、自社や外部の資源(人、モノ、カネ、情報、時間、外部機関)を有効に活用し、目標達成に貢献する力。特に、限られた資源の中で、最大の効果を発揮し、目標達成に貢献する力。また、新しい価値を生み出すために、過去の経験や知識を基に、新しい視点やアイデアを創出し、それを現実化する力。また、問題解決のための創造的な思考や、リスク管理などの能力も含まれます。また、新しい価値を生み出すためには、正しい意思決定に結びつく大切な要素の一つであることも理解する必要があります。

【指標ポイント】

- ある資源の活用が求められる、且つどこも人手不足や情報不足に悩む、といった状況で、限られた資源の中で、最大の効果を発揮し、目標達成に貢献する力。
- 限られた資源の中で、最大の効果を発揮し、目標達成に貢献する力。
- 限られた資源の中で、最大の効果を発揮し、目標達成に貢献する力。

【レベル別認知トレーニング項目】

- チームワークや活動、イベントの準備などで、限られた予算の使い道を考えることがありましたか？
- 自分だけで達成が困難な課題などで、誰かにサポートをお願いして課題を達成したことがありましたか？具体的に説明してください。
- チームワークや活動などで、経験のない活動をするときにどのようにしましたか？具体的に説明してください。

■ リスクテイクキング (何かをやる力)

【リスクテイクキングとは】
将来の仕事において、有益な情報を効果的に収集する」という情報指向性は、必要な情報を効果的に収集し、把握することにより、問題の解決や意思決定に大きく影響します。そのためには、必要な情報を効果的に収集し、把握することにより、問題の解決や意思決定に大きく影響します。そのためには、必要な情報を効果的に収集し、把握することにより、問題の解決や意思決定に大きく影響します。

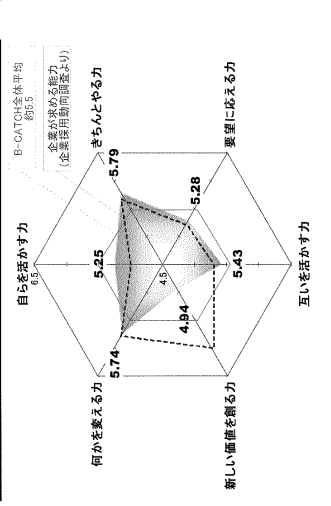
【指標ポイント】

- さらにもう一歩踏み出すこと、事前に行動計画を練ることで、不利の事態が起ることを回避することを目指す。
- さらにもう一歩踏み出すこと、事前に行動計画を練ることで、不利の事態が起ることを回避することを目指す。
- さらにもう一歩踏み出すこと、事前に行動計画を練ることで、不利の事態が起ることを回避することを目指す。

【レベル別認知トレーニング項目】

- 面接活動などで、他の応募者よりも積極的に挨拶をする。
- 面接活動などで、他の応募者よりも積極的に挨拶をする。
- 面接活動などで、他の応募者よりも積極的に挨拶をする。

コンピテンシー6領域(平均)



コンピテンシー10因子(平均)

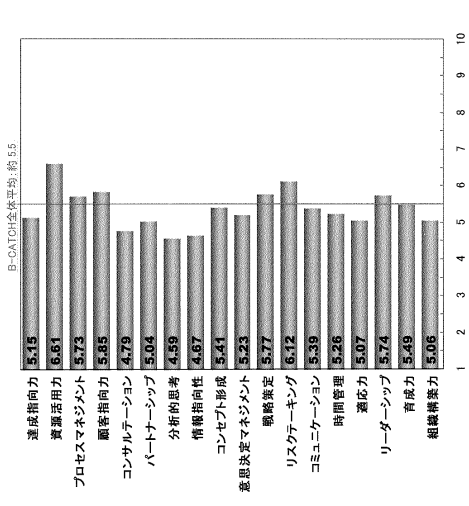
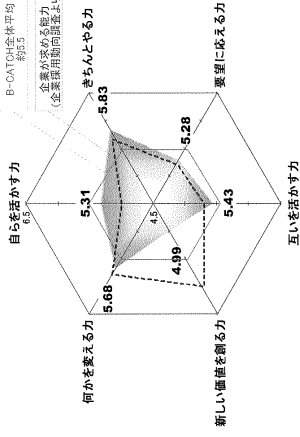


図5 大阪国際大学 全学部211名

©BUNKAHOSEI Career Partners Co., Ltd. ©Fuji Xerox Learning Institute Inc.

コンピテンシー6着眼(平均)



コンピテンシー18因子(平均)

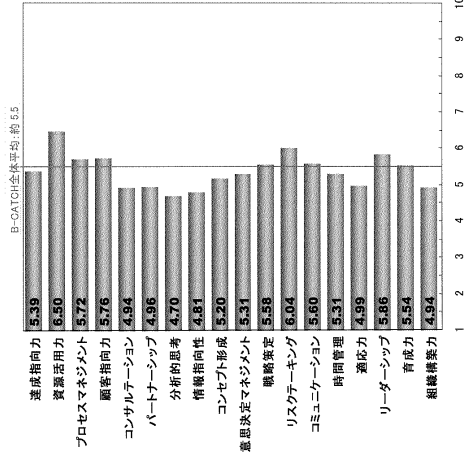


図6 大阪国際大学 3年生学部118名

B-CATCH コンピテンシー分析シート

よく発達しているコンピテンシー

【資源活用能力(きちんとやる力)】

【資源活用能力とは】
 将来の仕事において、自社や外部の資源(人、モノ、カネ、情報、時間、外部関係)を有効に活用し、目標を達成していく能力のことです。目標達成には、自分の力でできる範囲の能力を、組織の力がカバーできる範囲まで活用し、目標を達成していくことが重要です。経営のスピードが速まる中、短時間で最大の成果をあげるために、効果的、効率的に資源を活用する能力の重要性が高まることを理解する必要があります。
 自己や他者の長所や短所を把握できるとともに、短期間で目標を達成していく成果に結びつかないような結果を生み出し、身につけておくべき、新しい資源の有効活用、身につけるべき資源の調達などの能力はより成果を出していくために、重要な能力だからこのように評価されています。

【情報指向性】

【情報指向性とは】
 自己の情報活用能力を高めるには、目下から、人間の動作や情報収集に心がけ、よりスピードアップしたやり方やより大規模にのびる社会で即ち効果を得る方法を考えと検討することを継続するようになることを目指してください。
 □メンバーの得意分野や専門能力を把握して、役割分担をする。
 □誰に何を聞けばよいか、新しい情報を常に把握しておく。
 □もっと深く同じ効果を得るためにどのようにすればよいかを考える。

【レベル増進ヒアリング項目】

○サークル活動、イベントの情報などで、聞かれた予想外の使い道を考えることがありましたか？
 ○自分で行うには得意だが困難な課題などで、誰かにサポートを依頼し、課題を達成したことがありましたか？具体的に説明してください。
 ○チーム活動や、他者との協働のよい活動をしたときにどのようにおぼしまりましたか？具体的に説明してください。

【リスクテークینگ(何かを覚える力)】

【リスクテークینگとは】

【リスクテークینگとは】
 将来の仕事上において、「失敗を恐れず、積極的に学習的に専断的にチャレンジしていく行動力に繋がります。失敗を恐れて、挑戦することがないことは、積極的なチャレンジしていく行動力に繋がります。新しい方法や手段では、成功に結びつかない時、リスクを敢てながら挑戦していくことが必要です。挑戦に失敗しても、質問し先輩からの考えや方法に相談し、身につけるチャレンジを繰り返しておくとともに、質問し先輩からの考えや方法を聞き、リスクを恐れず挑戦する姿勢は、従来とは異なり、これらのビジネスマインドに求められる能力であることを理解させてください。

【情報指向性】

【情報指向性とは】
 自己の情報活用能力を高めるには、目下から、人間の動作や情報収集に心がけ、よりスピードアップしたやり方やより大規模にのびる社会で即ち効果を得る方法を考えと検討することを継続するようになることを目指してください。
 □メンバーの得意分野や専門能力を把握して、役割分担をする。
 □誰に何を聞けばよいか、新しい情報を常に把握しておく。
 □もっと深く同じ効果を得るためにどのようにすればよいかを考える。

【レベル増進ヒアリング項目】

○チーム活動などで、起の異なる仲間についてどのように対応しようと考えましたか？具体的に説明してください。
 ○何か新しいことを覚えるには、誰か他の先輩などのように確かめていきませんか？具体的に説明してください。
 ○何か新しいことを覚えるには、誰か他の先輩などのように確かめていきませんか？具体的に説明してください。

あまり発達していないコンピテンシー

【分析的思考】(新しい価値をつくる力)

【分析的思考とは】
 将来の仕事上においては、「問題などがいくつかに種類に分類し、組み合わせる時、表層をより深層にまで掘り下げていく能力のことです。問題が複雑になると、原因は多岐にわたります。表面的には必ずしも原因が分かると、その原因が深層にまで掘り下げていく能力のことです。また、他者のニーズの把握や、リスク回避など、情報は必要不可欠なものであると理解させてください。
 この力が強いと、自分が起していること、または経験したことだけに頼って、重要な他の現象を察知したり、起つた問題に対して適切な対応をとることができ、起つた問題を解決させることができます。

【情報指向性】

【情報指向性とは】
 自己の情報活用能力を高めるには、目下から、人間の動作や情報収集に心がけ、よりスピードアップしたやり方やより大規模にのびる社会で即ち効果を得る方法を考えと検討することを継続するようになることを目指してください。
 □メンバーの得意分野や専門能力を把握して、役割分担をする。
 □誰に何を聞けばよいか、新しい情報を常に把握しておく。
 □もっと深く同じ効果を得るためにどのようにすればよいかを考える。

【レベル増進ヒアリング項目】

○講義、レポートをよめる時など、どんなことに重点をおいていますか？具体的に説明してください。
 ○課題作成、発表など、どんなことに重点をおいていますか？具体的に説明してください。
 ○自己PR、卒業活動などを考える時は、何に重点をおいていますか？具体的に説明してください。

【情報指向性】(新しい価値をつくる力)

【情報指向性とは】
 自己の情報活用能力を高めるには、目下から、人間の動作や情報収集に心がけ、よりスピードアップしたやり方やより大規模にのびる社会で即ち効果を得る方法を考えと検討することを継続するようになることを目指してください。
 □メンバーの得意分野や専門能力を把握して、役割分担をする。
 □誰に何を聞けばよいか、新しい情報を常に把握しておく。
 □もっと深く同じ効果を得るためにどのようにすればよいかを考える。

【情報指向性】

【情報指向性とは】
 自己の情報活用能力を高めるには、目下から、人間の動作や情報収集に心がけ、よりスピードアップしたやり方やより大規模にのびる社会で即ち効果を得る方法を考えと検討することを継続するようになることを目指してください。
 □メンバーの得意分野や専門能力を把握して、役割分担をする。
 □誰に何を聞けばよいか、新しい情報を常に把握しておく。
 □もっと深く同じ効果を得るためにどのようにすればよいかを考える。

【レベル増進ヒアリング項目】

○チーム活動などで、起の異なる仲間についてどのように対応しようと考えましたか？具体的に説明してください。
 ○何か新しいことを覚えるには、誰か他の先輩などのように確かめていきませんか？具体的に説明してください。
 ○何か新しいことを覚えるには、誰か他の先輩などのように確かめていきませんか？具体的に説明してください。

(3) 学部ごとに見ていくと、法政経学部では「何かを変える力」のうち、リスクテイクと戦略策定が、よく発揮されているコンピテンシーである。その反面、「きちんとやる力」のうちの達成指向力と「新しい価値をつくる力」のうちの分析的思考と情報志向性が弱い。

B-CATCH コンピテンシー分析シート

コンピテンシー(特徴)

【リスクテイクとは】
 将来の仕事において、リスクを伴って目標を設定し、それを達成するまで諦めず、絶望の淵に陥ることなく、達成に向けて、適切な意思決定や行動を継続して取り組んでいくこと。どのような場合でも、困難な状況に直面したとき、少くも、新しい挑戦にむかおうとする心づかい、思いやりを持って取り組むことができること。他人の成功を喜び、自分も成功するために努力すること。リスクを伴うながらも、必要とされるリスクを伴うことを理解でき、行動している力であることを理解できている。

【情報ポイント】
 行き届いたときには、何かの意思がいかんがまま考えたり、また、そこからいかに一人一人が考えます。誰かと相談してみることや質問しあうことが重要です。
 □物事に取組む姿勢、リスクを享受する。
 □目標を達成するまで諦めず、継続して取り組む。
 □周囲の人に相談し、助けの要するポイントを確認する。

【レベル別課題とアライン項目】
 ○レベル1 課題: 自分が得意な課題に取り組んだことかありますか？その際のことを具体的に説明してください。
 ○レベル2 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジしたことかありますか？具体的に説明してください。
 ○レベル3 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジし、具体的な結果を説明してください。

よく発揮されているコンピテンシー

■ 達成指向力 (きちんとやる力)
 将来の仕事において、目標を設定し、それを達成するまで諦めず、絶望の淵に陥ることなく、達成に向けて、適切な意思決定や行動を継続して取り組んでいくこと。どのような場合でも、困難な状況に直面したとき、少くも、新しい挑戦にむかおうとする心づかい、思いやりを持って取り組むことができること。他人の成功を喜び、自分も成功するために努力すること。リスクを伴うながらも、必要とされるリスクを伴うことを理解でき、行動している力であることを理解できている。

【情報ポイント】
 行き届いたときには、何かの意思がいかんがまま考えたり、また、そこからいかに一人一人が考えます。誰かと相談してみることや質問しあうことが重要です。
 □物事に取組む姿勢、リスクを享受する。
 □目標を達成するまで諦めず、継続して取り組む。
 □周囲の人に相談し、助けの要するポイントを確認する。

【レベル別課題とアライン項目】
 ○レベル1 課題: 自分が得意な課題に取り組んだことかありますか？その際のことを具体的に説明してください。
 ○レベル2 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジしたことかありますか？具体的に説明してください。
 ○レベル3 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジし、具体的な結果を説明してください。

■ 戦略策定 (何かを変える力)
 将来の仕事において、目標を設定し、それを達成するまで諦めず、絶望の淵に陥ることなく、達成に向けて、適切な意思決定や行動を継続して取り組んでいくこと。どのような場合でも、困難な状況に直面したとき、少くも、新しい挑戦にむかおうとする心づかい、思いやりを持って取り組むことができること。他人の成功を喜び、自分も成功するために努力すること。リスクを伴うながらも、必要とされるリスクを伴うことを理解でき、行動している力であることを理解できている。

【情報ポイント】
 行き届いたときには、何かの意思がいかんがまま考えたり、また、そこからいかに一人一人が考えます。誰かと相談してみることや質問しあうことが重要です。
 □物事に取組む姿勢、リスクを享受する。
 □目標を達成するまで諦めず、継続して取り組む。
 □周囲の人に相談し、助けの要するポイントを確認する。

【レベル別課題とアライン項目】
 ○レベル1 課題: 自分が得意な課題に取り組んだことかありますか？その際のことを具体的に説明してください。
 ○レベル2 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジしたことかありますか？具体的に説明してください。
 ○レベル3 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジし、具体的な結果を説明してください。

よく発揮されているコンピテンシー

■ リスクテイク (何かを変える力)
 将来の仕事において、リスクを伴って目標を設定し、それを達成するまで諦めず、絶望の淵に陥ることなく、達成に向けて、適切な意思決定や行動を継続して取り組んでいくこと。どのような場合でも、困難な状況に直面したとき、少くも、新しい挑戦にむかおうとする心づかい、思いやりを持って取り組むことができること。他人の成功を喜び、自分も成功するために努力すること。リスクを伴うながらも、必要とされるリスクを伴うことを理解でき、行動している力であることを理解できている。

【情報ポイント】
 行き届いたときには、何かの意思がいかんがまま考えたり、また、そこからいかに一人一人が考えます。誰かと相談してみることや質問しあうことが重要です。
 □物事に取組む姿勢、リスクを享受する。
 □目標を達成するまで諦めず、継続して取り組む。
 □周囲の人に相談し、助けの要するポイントを確認する。

【レベル別課題とアライン項目】
 ○レベル1 課題: 自分が得意な課題に取り組んだことかありますか？その際のことを具体的に説明してください。
 ○レベル2 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジしたことかありますか？具体的に説明してください。
 ○レベル3 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジし、具体的な結果を説明してください。

■ 戦略策定 (何かを変える力)
 将来の仕事において、目標を設定し、それを達成するまで諦めず、絶望の淵に陥ることなく、達成に向けて、適切な意思決定や行動を継続して取り組んでいくこと。どのような場合でも、困難な状況に直面したとき、少くも、新しい挑戦にむかおうとする心づかい、思いやりを持って取り組むことができること。他人の成功を喜び、自分も成功するために努力すること。リスクを伴うながらも、必要とされるリスクを伴うことを理解でき、行動している力であることを理解できている。

【情報ポイント】
 行き届いたときには、何かの意思がいかんがまま考えたり、また、そこからいかに一人一人が考えます。誰かと相談してみることや質問しあうことが重要です。
 □物事に取組む姿勢、リスクを享受する。
 □目標を達成するまで諦めず、継続して取り組む。
 □周囲の人に相談し、助けの要するポイントを確認する。

【レベル別課題とアライン項目】
 ○レベル1 課題: 自分が得意な課題に取り組んだことかありますか？その際のことを具体的に説明してください。
 ○レベル2 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジしたことかありますか？具体的に説明してください。
 ○レベル3 課題: リスクやアライメントを説明し、目標にチャレンジし、具体的な結果を説明してください。

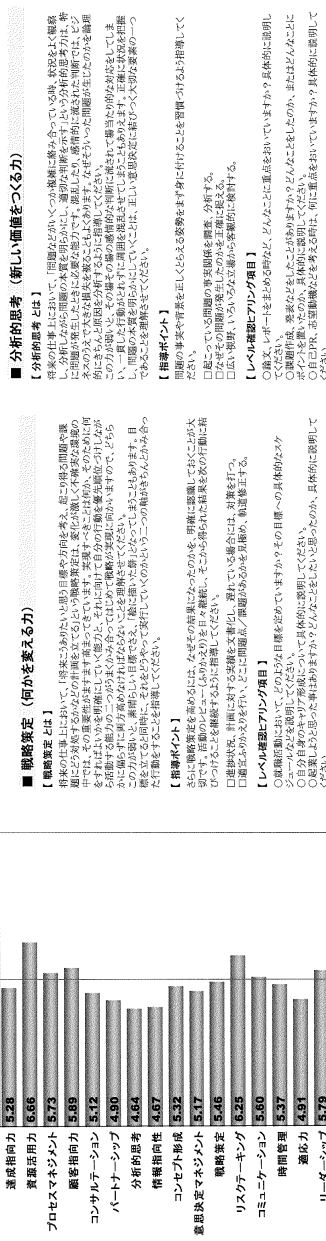
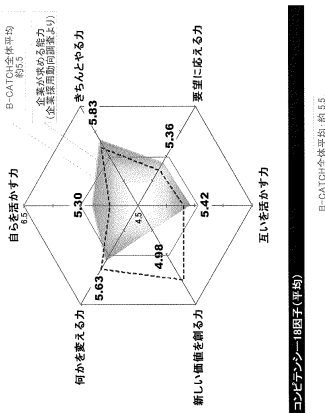


図 8 大阪国際大学 法政経学部92名(2・3年生)

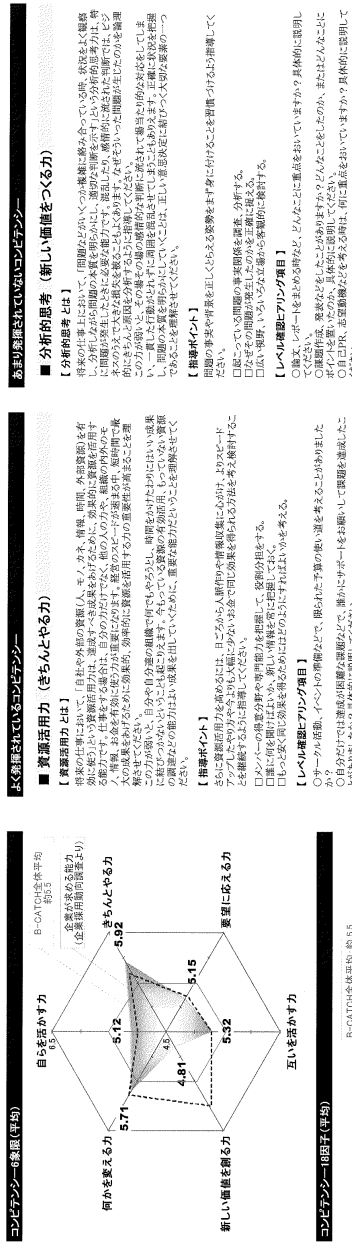


図9 大阪国際大学 経営情報学部84名(2・3年生)

(4) 経営情報学部では、「きちんとやる力」のうちの資源活用能力と「何かを変える力」のうちのリスクテイクが、よく発揮されているコンピテンシーだ。一方で、「新しい価値をつくる力」のうちの分析的思考と情報指向性が弱い。

【資源活用能力 (きちんとやる力)
 将来の仕事において、「自社や外社の経営(人、モノ、カネ、情報、時間、外部資源)を有効に活用する力」が資源活用能力。建設的・創造的・革新的な発想を促すために、効果的に資源を活用する人、情熱、上意下達を促す能力が重要となる。経営の中心となる経営戦略を、経営者・経営幹部が定めるために重要な役割を担うことである。自分自身も自らの資源で価値を創出できるか、時間を有効に活用できるか、といったことが重要である。自らの能力を最大限に発揮し、新しい価値を創出する能力を指す。

【リスクテイク (何かを変える力)
 将来の仕事上において、既成概念を打破し、新しい価値を創出する能力を指す。リスクテイクとは、新しい情報やアイデアを積極的に採用し、新しい価値を創出することを目指す。新しい価値を創出するために、新しい情報やアイデアを積極的に採用し、新しい価値を創出することを目指す。

【分析的思考 (新しい価値をつくる力)
 将来の仕事上において、「問題が起きている状態」を分析し、状況をよく理解し、分析し、問題の本質を明らかにし、適切な判断を下すという分析的思考力。特に、問題の本質を明らかにし、適切な判断を下すという分析的思考力。特に、問題の本質を明らかにし、適切な判断を下すという分析的思考力。

【情報指向性 (新しい価値をつくる力)
 将来の仕事上において、最新の情報を積極的に収集し、活用する能力を指す。最新の情報を積極的に収集し、活用する能力を指す。最新の情報を積極的に収集し、活用する能力を指す。

【達成指向力】
 自らの目標を達成するために、必要な行動を計画し、実行する能力を指す。自らの目標を達成するために、必要な行動を計画し、実行する能力を指す。

【プロセスマネジメント】
 業務の遂行において、適切な手順や方法を定め、実行する能力を指す。業務の遂行において、適切な手順や方法を定め、実行する能力を指す。

【顧客指向力】
 顧客のニーズを理解し、顧客満足度を高める能力を指す。顧客のニーズを理解し、顧客満足度を高める能力を指す。

【パートナーシップ】
 他者と協力し、共同で価値を創出する能力を指す。他者と協力し、共同で価値を創出する能力を指す。

【分析的思考】
 問題を分解し、本質を明らかにし、適切な判断を下す能力を指す。問題を分解し、本質を明らかにし、適切な判断を下す能力を指す。

【情報指向性】
 最新の情報を積極的に収集し、活用する能力を指す。最新の情報を積極的に収集し、活用する能力を指す。

【コンセプト形成】
 新しいアイデアや概念を創出し、形にする能力を指す。新しいアイデアや概念を創出し、形にする能力を指す。

【意思決定マネジメント】
 重要な意思決定を行う際に、適切な判断を下す能力を指す。重要な意思決定を行う際に、適切な判断を下す能力を指す。

【職務満足】
 自らの職務に対して、高い満足感を持つ能力を指す。自らの職務に対して、高い満足感を持つ能力を指す。

【リスクテイク】
 新しい価値を創出するために、リスクを冒す能力を指す。新しい価値を創出するために、リスクを冒す能力を指す。

【コミュニケーション】
 他者と効果的にコミュニケーションをとる能力を指す。他者と効果的にコミュニケーションをとる能力を指す。

【時間管理】
 限られた時間の中で、優先順位を定め、作業を完了させる能力を指す。限られた時間の中で、優先順位を定め、作業を完了させる能力を指す。

【適応力】
 変化する環境や状況に適応し、柔軟に対応する能力を指す。変化する環境や状況に適応し、柔軟に対応する能力を指す。

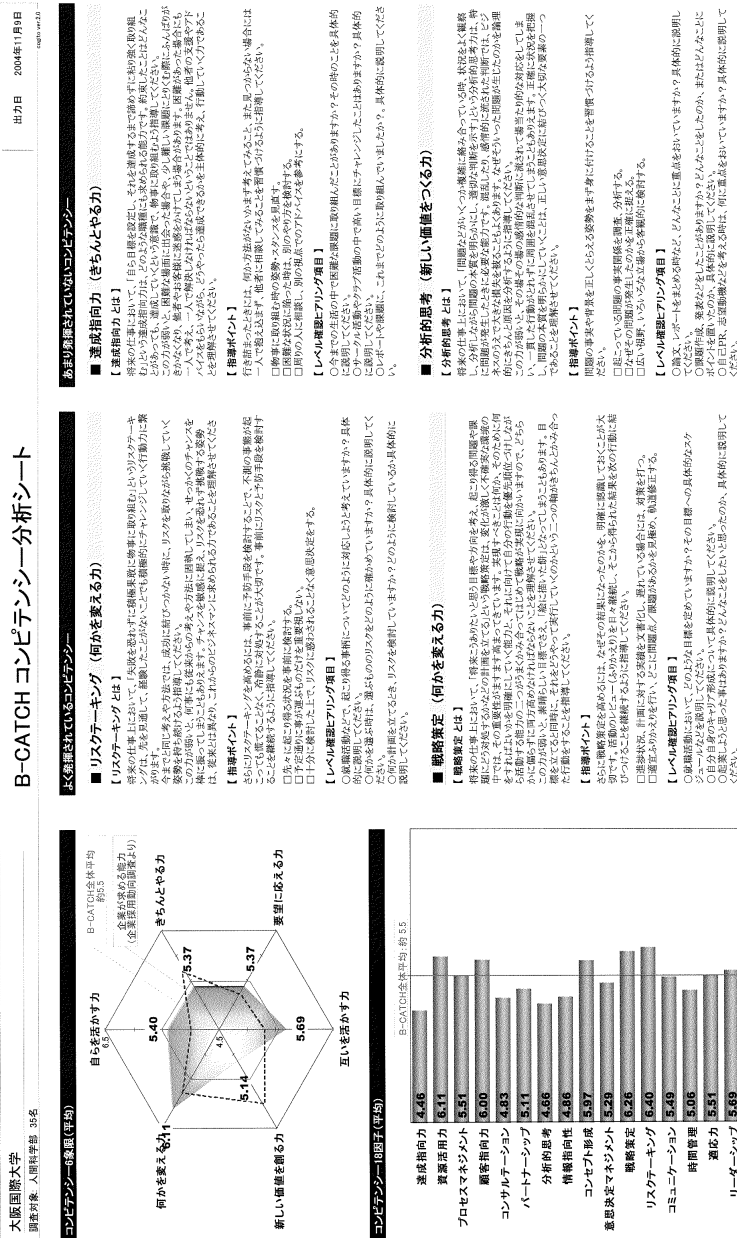
【リーダーシップ】
 他者を率い、目標を達成させる能力を指す。他者を率い、目標を達成させる能力を指す。

【習得能力】
 新しい知識やスキルを迅速に習得する能力を指す。新しい知識やスキルを迅速に習得する能力を指す。

【組織構築力】
 効果的な組織を構築し、運営する能力を指す。効果的な組織を構築し、運営する能力を指す。

©BUNSHOHO Career Partners Co., Ltd. ©Fuj Xerox Learning Institute Inc.

(5) 人間科学部では、「何かを変える力」のうちのリスクテイクと戦略策定に強みが発揮されている。一方で、「きちんとやる力」のうちの達成指向力と、「新しい価値をつくる力」のうちの分析的思考が弱くなっている。ただし、この学部では、「何かを変える力」の数値の高さは際立っている。



．コンピテンシー診断結果による、今後の課題

5 - 1 まとめ

ここで出た結果は、成長途上にある大阪国際大学生の、ある一面の行動パターンである。したがって、これをもってして一概に「何が良くて、何が悪い」と論ずることはできない。要は、コンピテンシーが良く発揮されている因子については、今後もさらに伸ばしていくようにアドバイスすることが重要となってくる。一方でコンピテンシーがあまり発揮されていない因子については、それをしっかりと分析し、対策を立てていかなければならない。

5 - 2 発揮されていないコンピテンシー対策

現在、ビジネス社会が大卒者に求めるコンピテンシーは、「新しい価値をつくる力」と「何かを変える力」を持った人材であると言われている。本学の学生の弱点は、「新しい価値をつくる力」が発揮できていないことである。

全学部、学年を通して、あまり発揮されていないコンピテンシー「新しい価値をつくる力」のうち、分析的思考（調べたり、整理する力）と情報指向性（情報を集める力）については、以下のような対策が必要となる。

分析的思考とは、将来仕事をする上で、「問題などがいくつか複雑に絡み合っている時に、状況をよく観察し、分析しながら問題の本質を明らかにし、適切な判断を示す」という能力である。なぜ、そうした問題が生じたのかを論理的に分析する必要があるものか。この力が弱いと、一貫した行動がとれずに周囲を混乱させることさえあるといわれる。

そのために（１）起こっている問題の事実関係を調査・分析する。（２）なぜ、その問題が発生したのかを正確にとらえる。（３）広い視野、さまざまな観点から客観的に検討する。といったことが必要だ。当大学では、とりわけ少人数制のゼミナール等でこうした力を達成する必要がある。

例えば、日常のニュース（国際情勢、経済動向、社会問題）を取り上げ、学生と共に考える授業内容もその一環となるであろう。

また、情報志向性とは、「必要な情報を確実に収集し、把握することにより、問題の解決や意思を決定する時に」必要となる能力である。この力が弱ければ、自分が知っていること、または経験したことだけに頼ってしまい、他の重要な視点を見落とすことが予想される。

そのために、学業やサークルなどをはじめ、事前の情報収集や、情報のアンテナを持つよう指導する必要が生じてくる。こうした習慣を身に付けることにより、将来の仕事に役立つことを周知徹底させることがポイントとなる。

通常の授業やゼミナール等では、前の時間に課題を与え「自学自習」が必要となるような配慮が重要になるのではないだろうか。また、当大学においては「枚方キャンパス」と「守口キャンパス」の交流が、サークル活動において、ほとんどなされていない状況だ。両キャンパスに共通するサークル活動を立ち上げ、それを運営させていけるような流れを作らなければならない。

コンピテンシー診断の結果と大阪国際大学生の課題

学生たちはその活動の中で、他者の考えを知り、組織を動かすには“独り善がり”ではいけないことを知るだろう。サークル運営に必要なことは、できるだけ古い情報に頼らず、常に新しい情報を集めることだからだ。

5 - 3 課題

以上で、研究レポートを終えるが、こうした「社会で必要とされる能力」を学生に伝え、それが偏差値にあらわされるものではないことを、全学的に訴えていくことは早急に対策がとられるべきである。せっかく入った“自分の大学の中での学び”が将来不可欠になることを周知徹底させねばならない。

なぜなら、“キャリア教育”とは「成功した道すじ」を教える学問ではなく、「失敗しても、そこから立ち上がり、自らの人生設計を考えるように仕向けていく」学問だからだ。

意欲を持って入学してきた学生たちが、さらに意欲を持てるように日々の授業の中で、このコンピテンシーの結果を活かしていきたい。

参考・引用文献

- [1] 株式会社 文化放送キャリアパートナーズ・富士ゼロックス総合教育研究所
『コンピテンシー診断 B-CATCH 活用ガイド』